

# 眠り展：アートと生きること

Sleeping: Life with Art - From Goya and Rubens to Shiota Chiharu

## ゴヤ、ルーベンスから塩田千春まで

「眠り」は、人々にとって生きていく上で欠かせないだけでなく、芸術家たちの創造を駆り立ててきました。本展では、国立美術館所蔵の絵画、版画、素描、写真、立体、映像など、幅広いジャンルの古今東西のアーティスト 33 人・約 120 点の作品によって、多彩な「眠り」の表現をご紹介します。「眠り」がいかに表現されてきたかを探ることは、日常で見過ごしてきたものへの気づきをもたらし、私たちの迷いや悩みに対するヒントを与えてくれるでしょう。

「眠り」のかたち  
国立美術館コレクションでみる



ペーテル・パウル・ルーベンス 《眠る二人の子供》 1612-13年頃  
国立西洋美術館蔵

**会期** 2020年11月25日[水] - 2021年2月23日[火・祝]

**会場** 東京国立近代美術館 企画展ギャラリー [1階]

### 本展のポイント

- 「眠り」がいかに芸術家たちの創造を駆り立ててきたか、美術作品に表現されたさまざまな「眠り」のかたちを、国立美術館が所蔵するコレクションから読み解く展覧会です。
- 「眠り」の表現からは、単なる癒しや休息の意味だけでなく、夢と現実、生と死、意識と無意識といった相反する価値観のあわいや、迷いながら生きる人間の姿、そのはかなさなど、さまざまな問いかけを読み取ることができます。社会は今、災害や感染症、環境問題や差別、貧困などの困難に直面しています。その不安の中で生きる私たちの姿を作品と重ね合わせることによって、アートを通じた「眠り」が、安らぎを与えてくれるだけでなく、日常の迷いや悩みに対するヒントを与えてくれるに違いありません。
- 「陰影礼讃」(2010年)、「No Museum, No Life? -これからの美術館事典」(2015年)に続く、国立美術館合同展の第3弾。ルーベンス、ゴヤ、ルドン、藤田嗣治、内藤礼、塩田千春など、国立美術館の豊富な所蔵作品の中から厳選した古今東西のアーティスト 33 人の作品約 120 点が一堂に会します。
- トラフ建築設計事務所が手がける会場デザインも見どころです。グラフィックデザイナー・平野篤史氏 (AFFORDANCE) による会場グラフィックとあわせて、「起きながら見る眠りの世界」に皆さまをいざないます。

## 国立美術館とは

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館、国立映画アーカイブの6館から成る日本のナショナルミュージアム。国立美術館が所蔵するコレクションは、一人でも多くの方に見ていただきたい国の芸術財産であり、紀元前から現代、絵画、写真、彫刻、映像、デザインなど多岐にわたり、美術作品の所蔵数は約4万4千点にのぼります。

## 展覧会の構成

本展は、18-19世紀に活躍した巨匠・ゴヤを案内役に、美術における眠りが持つ可能性を、序章、終章を含む7章構成でとどります。ルーベンス、クールベから、河原温、内藤礼、塩田千春まで、美術史上の名作家から現代アートに至るまでを意外な取り合わせでご紹介します。

### ■ 序章 目を閉じて

眠りは、目を閉じることから始まります。眠ること、目を閉じることは、いかにも無防備で頼りない行為に思えるかもしれませんが、一方で目を閉じることは、自己の内面と静かに向き合うことを導きます。

出品作家：ペーテル・パウル・ルーベンス、ギュスターヴ・クールベ、  
オディロン・ルドン、河川龍夫ほか



フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス  
《『ロス・カプリチオス』：理性の眠りは怪物を生む》 1799年 国立西洋美術館蔵

### ■ 第1章 夢かうつつか

人は、夢と現実を行き来しながら生きています。そして時には、夢と現実のはざまの「夢かうつつか」ははっきりしない状態になることがあります。眠りは、夢と現実、あるいは非現実と現実をつなぐものであり、それらの連続性の中に存在するのです。

出品作家：マックス・エルンスト、瑛九、檜橋朝子、  
饒加恩（ジャオ・チアエン）ほか



檜橋朝子  
《Half awake and half asleep in the water》シリーズより  
Miyajima, 2004  
2004年 東京国立近代美術館蔵



饒加恩《レム睡眠》（部分）  
2011年 国立国際美術館蔵  
©Chia-En Jao

### ■ 第2章 生のかなしみ

永眠という言葉があるように、眠りは死に喩えられます。眠りは生きる上で必要なものでありながら、その裏側には死が存在するのです。本章の表題にある「かなしみ」には、「悲しみ」だけでなく「愛（かな）しみ」という、死と隣り合わせにありながらも懸命に生きようと生をいとむ前向きな意味合いが含まれます。そんな生のかなしみを思う表現をご紹介します。

出品作家：小林孝亘、内藤礼、塩田千春、荒川修作ほか



内藤礼《死者のための枕》  
1997年 国立国際美術館蔵



塩田千春《落ちる砂》  
2004年 国立国際美術館蔵

### ■ 第3章 私はただ眠っているわけではない

単に眠っているだけに見える人物像でも、描かれた当時の時代背景などの文脈を加えたり、現代の状況に重ね合わせることで、異なる意味が引き出されます。

出品作家：阿部合成、香月泰男、北川民次、森村泰昌ほか



阿部合成《百姓の昼寝》  
1938年 東京国立近代美術館蔵

## 展覧会の構成

### ■ 第4章 目覚めを待つ

眠りの後には目覚めが訪れます。現在眠っているものでも、将来的な目覚めを期待させるのです。芸術家たちの作品の中に見て取ることができる、目覚めにまつわる表現をご紹介します。

出品作家：河口龍夫、ダヤニータ・シン、大辻清司



ダヤニータ・シン《ファイル・ルーム》  
2011-13年 京都国立近代美術館蔵  
©DAYANITA SINGH

### ■ 第5章 河原温 存在の証しとしての眠り

戦後美術を代表する芸術家の一人である河原温（1932-2014年）の作品を通じて、眠りと目覚め、生と死との関係性について探ります。

出品作家：河原温

### ■ 終章 もう一度、目を閉じて

アートにおける「眠り」、目を閉じる表現は、実に大きな意味の広がりを持っています。単に眠っている（目を閉じている）ように見える人物像であっても、そこには違う意味合いが感じられるようになるでしょう。目を閉じることは、他者の視線に身を任せることを意味する反面、自らの来し方・行く末を思い、静かに瞑想する機会を与えてくれます。目を閉じる人が描かれた作品を前にした私たちにも、これまでの日常を振り返り、これからをいかに過ごすかを考えるためのヒントがもたらされるはずです。

出品作家：ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、金明淑（キム・ミョンスク）

## 展示デザインについて

本展では、展示室の設計デザインをトラフ建築設計事務所が、グラフィックデザインを平野篤史氏（AFFORDANCE）が手がけました。

「眠り」というテーマから、展示空間にはカーテンを思わせる布、布のようなグラフィックなどが現れます。また、「夢かうつつか」はっきりしない状態をイメージさせる不安定な感じの文字デザインなど、起きていながらにして「眠り」の世界へいざなう様々な仕掛けが見どころです。

また、もう一つ本展の重要なテーマに「持続可能性」(sustainability)があります。「眠り」は生命を維持するために欠かせないものであり、繰り返されるもの。それとリンクする形で、少しでも環境の保全を目指すべく前会期の企画展「ピーター・ドイグ展」の壁面の多くを再利用しています。



展示会場のイメージ図（トラフ建築設計事務所）



眠り展メインビジュアル  
平野篤史（AFFORDANCE）



## 開催概要

タイトル(日)	眠り展：アートと生きること ゴヤ、ルーベンスから塩田千春まで
(英) 読み方	Sleeping: Life with Art - From Goya and Rubens to Shiota Chiharu ねむりてん：あーとといきること ゴや、るーべんすからしおたちはるまで
会期	2020年11月25日[水] - 2021年2月23日[火・祝]
会場	東京国立近代美術館 1階 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
主催	独立行政法人国立美術館
開館時間	10:00 - 17:00 (金・土曜は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(2021/1/11は開館)、12/28[月] ~ 2021/1/1[金・祝]、2021/1/12[火]
アクセス	東京メトロ東西線 竹橋駅 1b出口より徒歩3分
観覧料	<p>一般 1,200 (1,000) 円、大学生 600 (500) 円</p> <p>* ( ) 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。</p> <p>* 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。</p> <p>* 国立美術館キャンパスメンバーズ加盟校の学生、教職員は無料。</p> <p>* 本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMATコレクション」(4-2F)、 「コレクションによる小企画 男性彫刻」(2F ギャラリー4) もご覧いただけます。</p>
お問い合わせ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
ホームページ	<a href="https://www.momat.go.jp">https://www.momat.go.jp</a>
同時開催	<p>所蔵作品展「MOMATコレクション」(4-2F) 2020年11月3日[火・祝] - 2021年2月23日[火・祝]</p> <p>「コレクションによる小企画 男性彫刻」(2F ギャラリー4) 2020年11月25日[水] - 2021年2月23日[火・祝]</p> <p>* 観覧料：一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円</p> <p>* ( ) 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。</p> <p>* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。</p>

## 【報道関係お問い合わせ先】

広報担当：高橋奈央、永田絢子

tel：03-3214-2597 fax：03-3214-2577 e-mail：pr@momat.go.jp